

10月27日(日)、南あわじ市議選挙・神戸市長選挙・豊岡市議選挙が執行される。

兵教組は、立候補予定者である「**もりかみ祐治**」さん(兵政連議員)、「**久元きぞう**」さん、「**伊賀ひろし**」さんの推薦を決定した。



南あわじ市議選挙
もりかみ祐治
1946年南淡町生まれ。県立三原高校を経て、京都大学教育学部卒業。後、明石市立花園小、三原町立榎列小、沼島小、阿万小に勤務。兵庫教育文化研究所事務局長、南淡町教育長等を歴任し、2005年南あわじ市議会議員初当選。2009年には2期目当選を果たし、議長・副議長を務める。豊かな教育環境の整備を重要課題とし、市費職員の増員(スクールカウンセラー、介助員等)をはじめとする学校へのさらなる支援体制確立をめざす。



神戸市長選挙
久元きぞう
1954年神戸市生まれ。灘高校を経て、東京大学法学部卒業後、自治省入省。総務省自治行政局長等を歴任し、2012年神戸市副市長。市政ビジョンに、「輝ける未来創造都市」を掲げる。教育分野では、学校空調設備の整備やトイレ改修、教員の資質向上、教育委員会の情報公開の徹底や市長と教育委員会の一層の連携など、児童生徒が安心して学べる環境を整備し、豊かに子育て・教育ができるまちづくりをめざす。



豊岡市議選挙
伊賀ひろし
1964年豊岡市生まれ。県立豊岡高校を経て、立正大学経済学部卒業。後、武蔵山治議員会館公設秘書として勤務。1994年旧豊岡市議会議員。初当選。現在に至るまで5期連続当選を果たしながら、新市監査委員、新市文教委員長を歴任。現在、議会運営委員、文教委員等を務める。「たくましく、誰にも似ていない、自らの個性を大切にする教育」をめざし、給食の地産地消率大幅引き上げや、自己実現をはかる生涯教育の更なる充実・活性化にとりくむ。

南あわじ市議選挙
神戸市長選挙
豊岡市議選挙

兵教組が推薦する予定候補者

7月30日、第25回兵教組栄養教員部夏季学習会がラッセホールで開かれ、約130人が参加した。基調提案では、「栄養教員をとりまく情勢」、「安心・安全でおいしい学校給食を充実させるとりくみ」



兵教組 栄養教員部

食に関する指導の充実を

夏季学習会

「食育推進のとりくみ」、「組織強化・拡大のとりくみ」について提起された。続いて、「語り継ごう! 兵教組栄養教員部運動」と題してシンポジウムをおこなった。パネリストとして福嶋美千代さん(前日教組栄養教員部長)、長嶋悦代さん(前兵教組栄養教員部副部長)を迎え、須貝直美さん(兵教組栄養教員部長)がコーディネーターを務めた。

1975年に県費負担の学校栄養職員が配置された翌年に兵教組栄養教員部が誕生したことや、県教委との交渉の末、「学校給食衛



生管理マニュアル(兵庫県版)に、校長・場長が衛生管理の「最高責任者」であると明記されたことなど、とりくみの歴史と成果について語られた。午後は、グループごとに分かれて栄養教員としての仕事内容を書き出すワークショップがおこなわれた。参加者からは、自らの仕事の幅広さを改めて認識したという声があった。

いきる つながる みちひらく ~自立と連帯・共生の学びと教育~

ひょうご教育フェスティバル



第63次兵庫県教育研究集会「ひょうご教育フェスティバル」が11月9日(土)、10日(日)の2日間、神戸市で開催される。今年も保護者や地域の方にも参加を呼びかけ、子どもたちの笑い声が響く「地域に開かれた教研集会」をめざす。

昨年のオープニングを飾った、小・中学生によるヒップホップ&ジャズダンス

今年教研も「いきる つながる みちひらく」と自立と連帯・共生の学びと教育をメインテーマに、9年目を迎える「開かれた教研」をいっそう推進する方向でとりくむ。全体会は神戸ベイシェラトンホテル&タワーズで開かれ、神戸市立玉津中学校ブラスバンド部がオープニングを飾る。バリアフリーコンサートタレントの鈴木ひとみさんを講師に、「一人に優しい地域づくり、街づくり」と題した保護者版・地域版にて

昨年、川西市でおこなわれた集会は、子ども・保護者・地域住民も含め、2日間で延べ5,100人の参加があった。教職員のレポート数は367本にのぼり、地域や保護者からは過去最高の32本のレポート報告があった。日々の学校現場の教育活動や実践の交流など活発な討議がおこなわれ、大きな成果が得られた。記念講演もおこなう。1つの特別分科会を含め24分科会が、向洋中学校と六甲アイランド小学校でおこなわれる。また、9日(土)午後2時から六甲アイランド小学校体育館で、「大人の社会的教育力を学校から高めよう」をテーマに「子どもたちの育ちを考えるシンポジウム」が開催される。分科会場となる両校では、地域企業団体や地域振興会の協力を得た「展示・体験コーナー」を開設。昼食時には、向洋中学校の体育館で「ステージ発表・子ども体験発表」が両日おこなわれる。



昨年の日本語教育分科会

厚生会創立45周年記念 冬のボーナス キャンペーン定期預金

キャンペーン定期預金
【定期預金1年もの】
年利率 **0.555%**
税引後利率 **0.442%**
創立45周年を記念して上乗せ利率 **+0.045%**

予約受付締切 県費会員 11月20日(水) 市町費会員 11月12日(火)

振込取扱期間 12月2日(月)~2014年1月8日(水)

その他の預金商品
【臨時積立預金】
ボーナスを臨時で積立できます。いつでも自由に払戻し可能! 無理せず貯まる、うれしい積立預金
年利率 **0.500%** 税引後利率 **0.398%**
【定期預金2年もの】
しっかり預けて、確実に貯めたい人に! キャンペーン期間を過ぎても申込可能です。
年利率 **0.520%** 税引後利率 **0.414%**

税引後の利率は、20.315%(国税15.315%、地方税5%)で計算しています。

「厚生会創立45周年記念キャンペーン金利」実施中!!

「すまいる住宅貸付」利用者特典
「Get's! 家電 Oh③⑤⑩キャンペーン」実施中!!

「厚生会創立45周年記念キャンペーン」金利の設定と「すまいる住宅貸付」利用者特典「Get's! 家電 Oh③⑤⑩キャンペーン」を実施しています。ぜひこの機会にご利用ください。詳細は、10月配布の案内チラシをご覧ください。

- ★対象貸付 すまいる住宅貸付、短期貸付、特別貸付
- ★取扱期間 すまいる住宅貸付 2014年2月24日締切(3月31日送金) 分まで 短期貸付、特別貸付 2014年2月28日締切(3月10日送金) 分まで
- ★対象 期間中に対象貸付を新規利用された方
- ★キャンペーン金利 (年利) (2013年10月1日現在)

すまいる住宅貸付		短期貸付		特別貸付	
特約	金利	返済回数	金利	種別	金利
固定2年	1.14%	12・24回	1.59%	エコ貸付	1.50%
固定3年	1.23%	36回	1.83%	エコ貸付以外の特別貸付	1.56%
固定5年	1.29%	60回	2.31%		

★Get's! 家電 Oh③⑤⑩キャンペーン
「すまいる住宅貸付」利用者特典として、学校生協取扱いの家電商品(③万、⑤万、⑩万円相当)をもれなくプレゼント!!
※貸付総額30億円までの限定企画となります。

お問合せ・お申込み先 (一財)兵庫県学校厚生会 業務部 業務1課 または各支部事務所
TEL (078) 331-9974

教育課程編成講座
(前期)

教育講演会

体育・スポーツの可能性と課題

〜体育カリキュラムとポリティクスの視点から〜

井谷恵子さん (京都教育大学 保健・体育部会協力研究所員)

8月6日、ラッセホールにおいて第40回教育課程編成講座(前期)が開催された。京都教育大学の井谷恵子さんが、「体育・スポーツの可能性と課題〜体育カリキュラムとポリティクスの視点から〜」をテーマに講演した。



教育やスポーツ界に働くポリティクス

最近、体罰事件などでスポーツと暴力の関係が注目されている。暴力を肯定する人々はもちろんだが、暴力を止められなかった、あるいは仕方がないよねという暗黙の合意や否定をしない、それを止めないというスポーツ基本法にも謳われている通り、心身の健全な発達、健康および体力の保持増進、精神の涵養などのためにおこなわれるものである。世界共通の人類の文化であり暴力とは相容れない。オリンピック憲章においても、コーチや選手によるフェアプレーと非暴力の精神の尊重が定められている。

私はこのメッセージに対して違和感を覚えた。まるで、体罰問題は一部の間でもない指導者が引き起こした事件であり、そういう指導者を処分することで問題は解決するという見解の表明と受け取れた。

スポーツにおける暴力というものは、暴力を日常的に行使するところでもない指導者、教員だけに終始する問題ではない。教育やスポーツ界全体に埋め込まれ



暴力とスポーツの親和性
体罰は、1つの指導のツールとして使われているようなところがある。体

罰・暴力は被害者に恐怖を与え、自己肯定感を著しく低下させる。そして、正常な判断や感覚を鈍らせることによって人をコントロールする作用がある。例えば、軍隊の訓練、カルト、最近ではブラック企業と呼ばれるところで、身体や言葉の暴力によって服従させやすくするためのツールとして機能しているように感じられる。

スポーツの場合も、指導者はコントロールしやすい集団をつくるためのツールとして無批判に用いているところがあるのではないだろうか。本来は、指導の専門家として、知識やスキルを駆使して指導をするべきである。自分の思い通りにならないことに対して感情を爆発させている面もある。体罰は愛のムチだとか、必要悪だとかいうことに対して疑いを持たない人も多いが、こうした思い込みや神話をつくり出すのも前述のポリティクスの作用である。

一方、暴力とスポーツには親和性があるということ、私は私たち教育に関わる者は心に留めておかなければならない。スポーツの起源

において、生死を賭けた野蛮な身体の闘争にルールを定めて、例えば、身体接触は反則にする等、できるだけ暴力性を排除していったという歴史がある。私たちが親しんでいる近代スポーツには、人と競うという競争性をめざすという競技性が備わっている。

暴力とスポーツの親和性の証拠のひとつに「ラフプレー」があげられる。観客の中にはラフプレーを期待する人もいるし、フリーガンのように観客が興奮して暴徒化することも知られている。女子スポーツが隆盛になったが、パワフルで荒々しい男性のスポーツが本物と感ずる人も多い。つまり、人々の中にラフプレーと暴力の境界あたりの部分をスポーツ、ゲームの一部として期待し、楽しんでいる、それを魅力と感ずるところがあるということも心に留めておくべきだろう。

体罰を受容する選手
調査(スポーツ指導者と競技者のセクシアル・ハラスメントに関する認識と経験の現状、熊安ほか、2009)によると、暴力を適切でないとしながら、「経験あり」と答えた指導者は10%存在する一方、全国大会レベルを経験している選手では「経験あり」が20%を占めるというギャップがある。これは一定の指導者があちこちで暴力をふるっているということかもしれないが、問題が選手側の受容度が高いことだ。多くが「暴力には意味があった」と答え、評価、経験ともに指導者よりも選手に肯定的回答が多い。

学習指導要領をとりまくポリティクス
教育は様々な権力が働いているものの、学習指導要領は大きな権力作用であり、私たちの教育実践を強く方向づける。ここでは、新学習指導要領に目をむけ、体育の重要な改訂のポイントであった「体づくり

運動の強化」と「スポーツの系統性の強化」に視点を当てる。

また、目標についても、「体力・運動能力調査における全体の平均値を低下傾向から上昇傾向に転じ、これまでの最高値を超えることをめざす」と述べ、果てしないたくましさをもとめているのかの感がある。子どもの体力低下については、十分に遊べるような生活環境が貧しくなり、基本的な運動技能が不足していることが大きな要因だと言われている。また、健康的な生活習慣が重要であり、これは他との比較や果てしなくたくましさをもとめること



「基本の運動」(低中学年)という領域が消え、その内容が細分化され、低・中・高学年の運動領域の縦のつながりが明示された。例えば、高学年の「水泳」は、中学年の「浮く・泳ぐ」運動、低学年の「水遊び」という縦の系統性である。

「低学年の水泳は高学年の水泳の基礎なのだから、クロールや平泳ぎの基本を身につけさせたい」という動きになるのではないかと懸念している。高学年の到達目標としてクロールと平泳ぎが25・50メートル泳げることが示されているため、この傾向が強い。

しかし、体育は、競争と協同が表裏一体となっているからこそ多面的な学びがあると以前から主張されてきた。しかし、競争原理が強まり、絆や連帯、協同を強調する風潮が強まる時代だからこそ、競争・協同というものを注意深く見ていく必要がある。教育の中にどういう風に現れて、教員がこれをどのように受け止め、子どもの中に競争・協同というものがあるのかという風にも染み込んでいくのかという諸点である。

競技化されたスポーツであっても、仲間との協同的な学習をうまく組み込むことが示されているため、この傾向が強い。

「体づくり運動の強化」の背景には、かつてのたくましかった時代、発展著しかった時代へのノスタルジーが潜んでおり、それが教育政策を方向付ける人々の間にだけではなく、一般的な共感を引き起こしている面がある。

例えば、子どもの体力向上に関する中教審答申(2002)では、「戦後わが国を発展させてきた社会のエネルギーは、上昇傾向にあった国民一人ひとりの持つ体力が基礎となってきたのではないかと考えると、これを担う子どもたちの体力が低下していることは極めて憂慮すべきことである」と述べられている。これは、子ども個人の発達保障として身体をとりえたいというところから、国の発展を支える人的資源としての問題意識に立っていると考えられる。

近代スポーツは、人と競い合い、点数化し、序列化し、専門化し、卓越性を追求する特徴がある。一方、体育には、スポーツ以外にも、身体に関わるより包括的な教育という側面がある。例えば、表現やダンスは競争ではないし、体づくり運動の中に入っているストレッチャや体ほぐしも競争ではない。自分の身体、内面と対話したり、身体を通して自己表現をすることが重要な体育の側面なのだが、イギリスだけでなく、日本でもスポーツ中心のポリキュラムが強まっていると考

「競争は社会発展に不可欠であり避けられないものだ」という言説が社会に存在する。「スポーツを見ても、競争しているじゃないか、ナンバードワンになるって素晴らしいよね」と、スポーツが引き合いに出されたり、スポーツで頑張る力を身につけると言われたりもする。その背後には、近代スポーツの特徴だけではなく、近年の競争原理や評価主義の強まりが横たわっていることを警戒すべきだろう。

「競争は社会発展に不可欠であり避けられないものだ」という言説が社会に存在する。「スポーツを見ても、競争しているじゃないか、ナンバードワンになるって素晴らしいよね」と、スポーツが引き合いに出されたり、スポーツで頑張る力を身につけると言われたりもする。その背後には、近代スポーツの特徴だけではなく、近年の競争原理や評価主義の強まりが横たわっていることを警戒すべきだろう。

小学校の体育カリキュラム(現行)

	1・2年	3・4年	5・6年
	体づくり運動		
領域	器械・器具を用いた運動遊び	器械運動	
	走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動
	水遊び	浮く・泳ぐ運動	水泳
	ゲーム		ボール運動
	表現リズム遊び		表現運動
	保健		

「水遊び→浮く・泳ぐ運動→水泳」など、スポーツ中心の系統性が重視

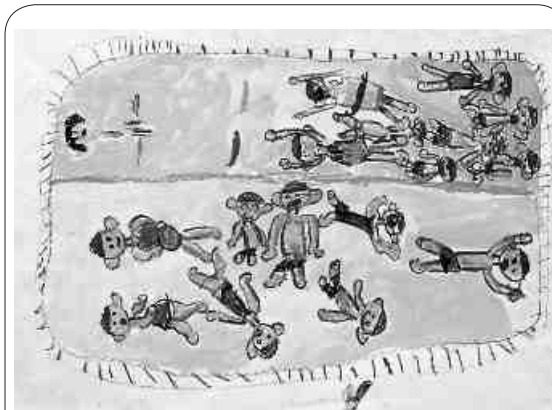
*5・6年生の到達目標: クロールと平泳ぎ、25-50m泳げる

⇒「走る・跳ぶ」はスポーツ競技の準備、導入段階?

多様で総合的な学びの保障を

体育は、競争と協同が表裏一体となっているからこそ多面的な学びがあると以前から主張されてきた。しかし、競争原理が強まり、絆や連帯、協同を強調する風潮が強まる時代だからこそ、競争・協同というものを注意深く見ていく必要がある。教育の中にどういう風に現れて、教員がこれをどのように受け止め、子どもの中に競争・協同というものがあるのかという風にも染み込んでいくのかという諸点である。

「競争は社会発展に不可欠であり避けられないものだ」という言説が社会に存在する。「スポーツを見ても、競争しているじゃないか、ナンバードワンになるって素晴らしいよね」と、スポーツが引き合いに出されたり、スポーツで頑張る力を身につけると言われたりもする。その背後には、近代スポーツの特徴だけではなく、近年の競争原理や評価主義の強まりが横たわっていることを警戒すべきだろう。



「たのしかったことを見つけたよ」
篠山市大芋小学校 二年 桑形 奈央
(こどもの詩と絵 第33集より)

び。元々素朴な遊びであるが、勝敗が強調されるとたちまち競技的なスポーツへと変貌してしまう。学校対抗ともなると、選抜チームがつくられ、役割分担、つまり補欠や応援係という存在を納得させてしまう。序列への従順さや、主流になるものと周縁化されるものとの差異が際立つようになる。最近では、テレビでも小学生の全国大縄跳び大会が放映されたりしている。縄跳びだけでなく、30人31脚や駅伝など過剰と感じられるものが増えた。子どもたちが良いパフォーマンスのためにと頑張っている姿を見ると、つい声援を送りたくなるが、同時に子どもたちの中に染み込んでいくものにも注意が必要だ。競技化は専門化を促進し、歯車の一つになることを受け入れさせる。そこに教育的な意味があると主張する人もあるかもしれないが、少なくとも個人の尊重を基底においた、より多様で総合的な学びが保障されるべきだろう。私たち教育に関わる者は、良くも悪くもこういったものをつくり出していく教育の場にいることを念頭に、子どもたちとともに学びをつくり上げていくことに留めたい。